

TAKE
FREE

VOL.01

HaruMirai

PAPER

晴海の未来を考えるフリーペーパー「ハルミライペーパー」

バス
の
運行時間
がまちまち

バリアフリー
問題

通勤混雑時
のマナーを
どうにかしたい

プロモーション
イベント
が必要

古くからの
知り合い
がいなくなった

スーパー
マーケット
が少ない

保育園
が増えない

閑散と
している

ご飯屋さん
が少ない

買い物ゾーン
がない

運動スペース
がない

歩道橋
が不便

地域の人
が集まれる場所が
欲しい

古びた
イメージがある

近所付き合い
できる場がない

インフラが
貧弱

夜遅いと
バスがなくなる

本屋さんが
ない

駅が遠い

運河を地域活動
などに使えないか?

— 8回のワークショップで —

晴海の未来を 考えました

東京臨海部の晴海地区は開発によってまちづくりが進められており、オリンピック・パラリンピック選手村の整備が急ピッチで進み、今後も大きく変貌するエリアです。2020年とその後のまちを見据えて、首都圏の大学が協力して「晴海の魅力を考えるワークショップ」を開催し、まちに新しい未来を加えるアイデアを探しました。

わたしたちと考えましょう!

02 WHAT's 晴海??

晴海の歴史や未来について解説

04 未来の晴海

晴海の未来像をイラストで紹介

06 のぞいてみよう!
未来の晴海ぐらし

晴海の未来にタイムスリップ

08 ハルミトリビア
編集後記

コラムと編集後記

晴海地区の土地利用の考え方

暮らしの交流ゾーン

幅広い世代が住みやすい、安らぎのある暮らしを営むゾーン

多様な都市機能の集積ゾーン

充実した生活・就業環境による、地域の交流ゾーン



スポーツ・健康交流ゾーン

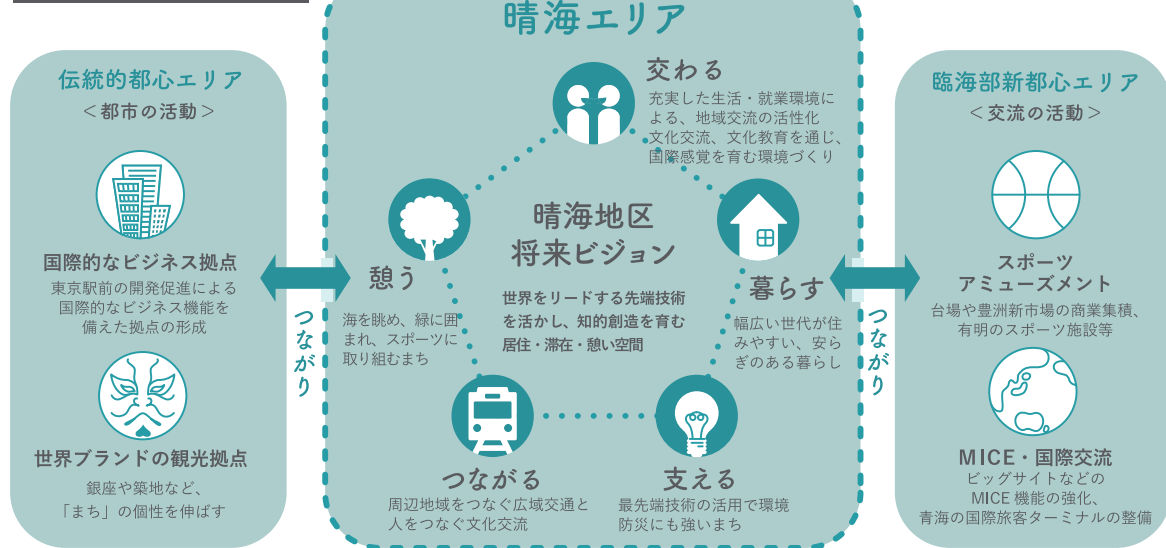
海を眺め、緑に囲まれ、スポーツに取り組むゾーン

文化教育交流ゾーン

文化交流、文化教育を通じ国際感覚を育むゾーン

晴海地区のビジョン

晴海地区の将来の役割



晴海はこれからどうなる？ ※中央区「晴海地区将来ビジョン」より

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の選手村が整備されることを契機に大会後の魅力あるまちづくりとなることを目的として、2014年(平成26年)2月に「晴海地区将来ビジョン検討委員会」が設立され、同年12月に「晴海地区将来ビジョン」が策定されました。「晴海地区将来ビジョン検討委員会」は地域代表らで構成されるもので、各丁目に特色を持たせていくという都市像を掲げています。そのビジョンを見てみましょう。

晴海ってどんなところ？

晴海地区は80年近く前に埋め立てられました。現在の人口総数は約13,000人ですが、オリンピック・パラリンピック選手村の跡地開発をはじめとする今後の住宅整備に伴い、約12,000人もの人口増加が見込まれます。日本全体が人口減少に向かう中、長年お住いの方と新しく引っ越してきた方、若年層・高齢者・子育て世代など多様な世代が暮らすまちになっていきます。



中央区の臨海部に位置している晴海は、海に囲まれて、周辺の月島・勝どき・豊洲地域と橋でつながっている。都心部の銀座からわずか2Kmの距離。

場所

人口 H29.4.1



晴海の人口総数は13,054人世帯数は6,156世帯若年層・高齢者・子育て世代など多様な世代が暮らす。

総面積

総面積は約106ha。

区画

3本の大通りで5つの丁目からなる。



1965年～現在

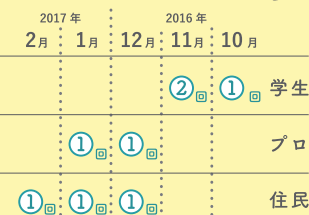
WHAT'S 晴海??

晴海の歴史を知ろう

Timeline of Aomi's history from 1931 to 2020. Key events include: 1931 (Moon Island No. 4 land reclamation), 1937 (No. 4 land reclamation and naming), 1940 (Katsudoki Bridge completion), 1955 (1st Tokyo International City Opening), 1957 (Japan Housing Corporation Aomi Land Completion), 1959 (Tokyo International City Opening), 1964 (Hibiya Bridge Opening and Tokyo Olympics), 1991 (Aomi Passenger Terminal Completion), 2001 (Aomi Island Triton Square Completion), 2020 (Tokyo Olympics and Paralympics Opening). Includes photos of historical buildings and modern developments.

8回のワークショップで晴海の未来を考えました

ワークショップスケジュール

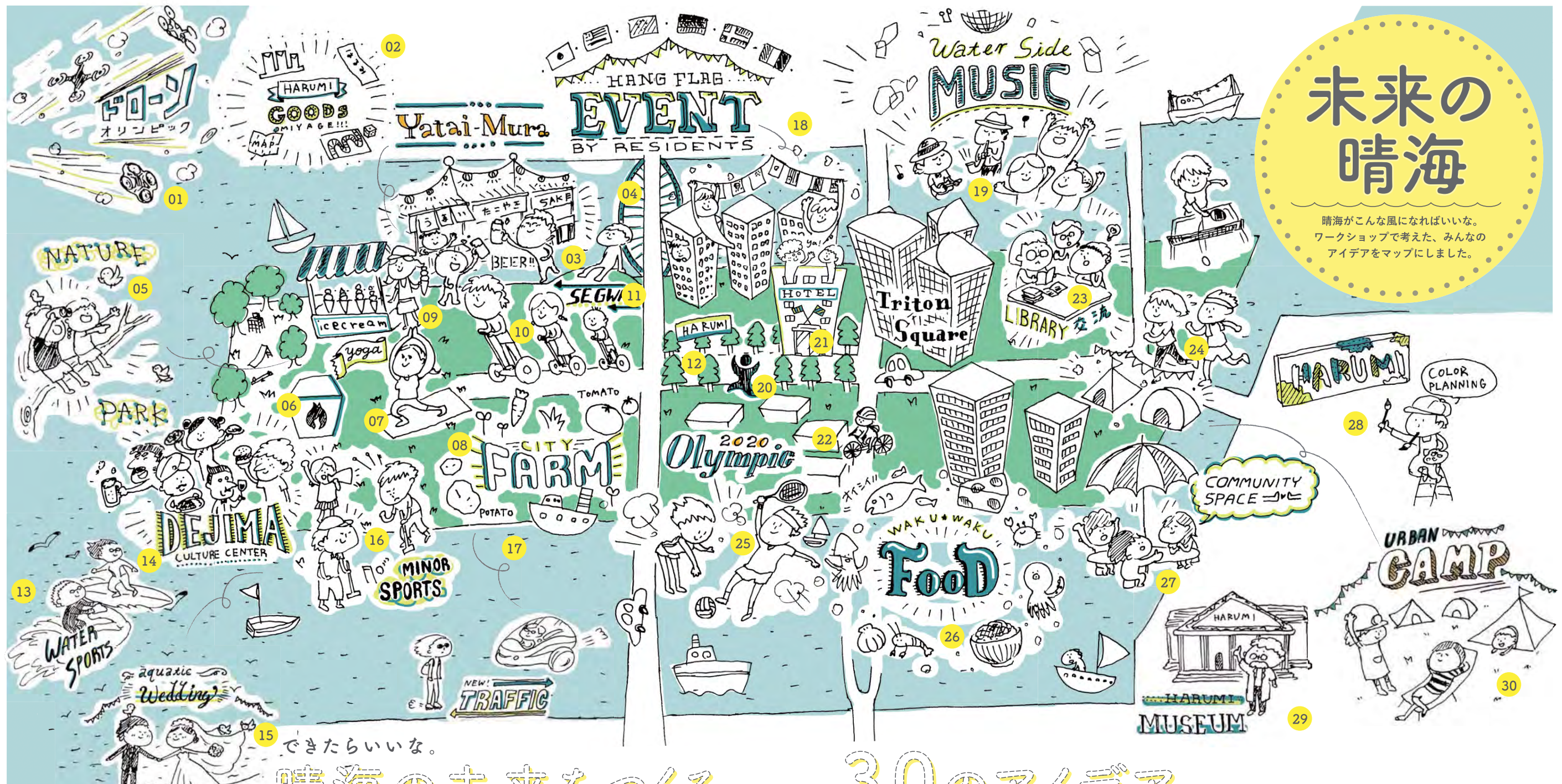


晴海のこれまでの歴史やまちづくりの蓄積を踏まえ、より広くアイデアを練るため、様々な大学のネットワークによって「晴海の魅力を考えるワークショップ」が開催されました。学生ワークショップには5つの大学から集まった約15名の学生が、プロフェッショナルワークショップには約15名のプロフェッショナルが、市民ワークショップには約25名の市民が参加しました。そこで出されたアイデアを4ページ目以降に紹介します。

Profiles of workshop participants: 学生 (Students) and 住民 (Residents). Includes photos and names of participants like 養庭伸 (Nori Kaido), 佐藤宏亮 (Hiroyuki Sato), and 泉山 豊威 (Yoshihide Izumiyama).

次ページよりワークショップ結果報告





未来の晴海

晴海がこんな風になればいいな。
ワークショップで考えた、みんなの
アイデアをマップにしました。

晴海の未来をつくる

30のアイデア

- 01 ドローンオリンピック**
ドローンを使ったレースや、ドローンの操縦や撮影の腕を競う世界レベルのコンテストを開く。
- 02 晴海グッズ**
晴海スゴロク、晴海街歩きマップなどのグッズをつくる
- 03 マルシェ+屋台村**
シンガポールや博多の中洲のような屋台村をつくり、週末にはマルシェを開く。
- 04 愛される橋と街**
アーティスト、子どもなどの参加を呼び込んで、晴海にかかる橋に市民参加型のデザインを施す。
- 05 晴海の森**
都心では数少ない大規模な敷地に、自然を造成し、多面的な触れ合いの場を設ける。
- 06 オリパラの遺産活用**
オリパラ大会時に形成されるロジスティクス、各種施設など有形無形の遺産を活用する。
- 07 スマート・ウェルネスの場作り**
暮らしているだけで健康的になる都市空間をつくる。公開空地 × ヨガ、公園 × 球技など。
- 08 スマート・ウェルネスのサポート**
住民の健康を可視化するなど、健康まちづくりを支える様々なツールをつくっていく。
- 09 オープンスペース × 商業**
オープンスペースを、フリーマーケット、移動販売、オープンカフェなど小規模商業の用地として活用する。
- 10 新しい交通手段**
セグウェイのシェア、カーシェアやタクシーの共同チャーター等の新しい地域交通の仕組みをつくる。
- 11 晴海の丘**
新設の交通ターミナルの整備にあわせて、晴海の陸の玄関口となるような緑豊かな丘をつくる。
- 12 旧三つ目通りを並木道に**
住民による植樹などを通じて、晴海の東西を通る旧三つ目通りを緑あふれる並木道へと変化させる。
- 13 運河 × 水上スポーツ**
運河や水辺空間を活用して、様々な水上スポーツができ、賑わいがあふれる水辺空間をつくりだす。
- 14 文化の「出島」**
海外の文化、食材、コンテンツを見せる。「出島」をつくる
- 15 水上ウェディング+カフェバー**
運河や水辺空間を、回遊性を重視した魅力ある水上ウェディングやカフェバーの場として再生する。
- 16 マイナススポーツの発信**
他で楽しむ場所がないマイナーなスポーツのプレイ環境を地区内に提供し、晴海から発信する。
- 17 食スクール × 都心農園**
食に携わる人が集まる場、食材や安全性の研究や交流を行うプロジェクトの場、実験場としての農園をつくる。
- 18 住民主体のオリンピック旗揚げ**
それぞれの集合住宅でコンセプトを決め、オリパラ期間中に窓やベランダなどに各国の国旗を掲げる。
- 19 晴海ブランド - 音楽と水辺 -**
朝潮運河などの水辺を舞台に音楽やアートを楽しむイベントを開き、晴海のブランドとしていく。
- 20 オリピックアート展**
オリパラの選手や競技を題材にした参加型のアート作品をメインストリートに展示する。
- 21 地域交流型ホテル**
観光客や長期滞在者と晴海地域が交流する空間やプログラムを組み込んだホテルをつくる。
- 22 外から人を呼ぶ施設誘致**
外部の人達を呼び込むために、滞在型の本屋など、話題性のある施設を誘致する。
- 23 キャリア荘**
地域住民と在勤者の居場所や情報共有空間として、「キャリア荘」という名の図書館をつくる。
- 24 ジョギング環境の整備**
誰でも気軽にランニングできる環境を作り、地域のカジュアルスポーツクラブを育成する。
- 25 オリパラ体験イベント**
オリパラスポーツ体験イベントを地域学校とも連携して開催したり、そのための場所をつくる。
- 26 ワクワクする食の発信基地**
オリジナリティのある小規模な飲食店を晴海に呼び込む。駆け出し料理人や若い人が出店できる機会をつくる。
- 27 コミュニティスペース in 公園**
緑豊かな環境を持つ公園を作り、そのなかに町内会などの地域コミュニティの拠点をつくる。
- 28 晴海の色計画**
メインストリートの植栽や沿道看板、旗などに特徴的なテーマカラーを与える色計画を作る。
- 29 湾岸部・まちの博物館**
東京湾岸部の開発の歴史とこれからのプロジェクトを知ることができ博物館をつくる。
- 30 街キャンプ in 晴海**
街なかの大きな土地でキャンプをし、楽しみながら、防災について考えるイベントを実施する。

16 マイナススポーツの発信

平 日の夜、そして土曜日や日曜日に、晴海の公園やトリトンスクエアのランドロビー、そして開発前の空き地は、多くの人たちがフリークライミングやスケートボードなどのマイナースポーツに汗を流す場所に変わります。マイナースポーツはたとえ世界レベルのプレイヤーであっても練習場所の確保に苦労することがあります。オリンピック・パラリンピックを契機にして、そういったマイナースポーツの競技団体と晴海地区の企業や住民がつながることができました。練習場所や拠点となるオフィスを晴海地区の中に設けるかわりに、地域の子供達や社会人に競技を教え、「このスポーツはHarumi」と言われるように世界に向けた情報発信をする、というwin-winの関係が作られたのです。スタープレイヤーは地域の子供達の憧れの的となり、プレイヤーを自指して真剣に練習に取り組む子供達も増えてきました。



06 オリパラの遺産活用



オ リンピック・パラリンピック期間中に選手たちが使った、瞑想のための空間、ランニングステーション、クラブハウスが残され、今では地域の人が使うことができる「スポーツコミュニケーション・ラボ」として公開されています。また、まちのあちこちには選手たちの手形やサインが残され、中でも東京オリンピック・パラリンピックで出た世界記録を模したスタートファニチャーは、地区外から訪れる観光客に人気の記念撮影スポットになっています。

28 晴海の色彩計画

晴 海オリンピックストリート沿いには綺麗に彩られた建物が建ち並んでいます。これは地域の人々に練りあげた晴海地区全体の詳細な色彩デザインのマスタープランをもとにして、外部からアーテリストを招いて、建物の壁面の「お化粧直し」を一つずつ積み重ねることによって作り出された景観です。考え方に共感する土地や建物のオーナーは少しずつ増えており、最終的には街全体に展開することが期待されます。点が線になり、景観を楽しみながら海へと続く晴海オリンピックストリートができることを目指しています。



17 食スクール × 都心農園

地 区の中に建ち並ぶ高層住宅の足許の公開空地や屋上、さらには空き地などに様々な野菜や果物をつくる都心農園が作られています。農作業をするのは主に地区の住民で、プロフェッショナルの指導を受けながら野菜や果物づくりに取り組んでいます。収穫された食べ物を調理するのも住民たちです。「ワクワクする食の発信基地」の料理人から指導を受け、新しい、健康な料理を学びます。大都市の都心には珍しい「自分たちで作って、自分たちで食べる」まちが晴海地区です。



24 ジョギング環境の整備

ジ ヨギングを楽しむ多くの人が、休日のトリトンスクエアを出発していきます。トリトンスクエアには、シャワールームとコインロッカーや給水場が整備されており、そこで着替えてジョギングをスタートします。トリトンスクエアで渡されるチップを身につけてジョギングすることによって、ジョギングタイム、走った距離、心拍数の変化などが自動的に計測され、自分の健康状態を正確に知ることができます。また、スマートフォンアプリを通じてそ

の情報を友達の間でシェアすることもできます。トリトンスクエアは「スマート&ウェルネス」をコンセプトとしており、トリトンスクエア内の飲食店ではランナー向けのメニューが提供されており、ジョギング後は栄養バランスを考えた食事を得ることができます。天気の良い日には、晴海から遠くお台場まで足を伸ばす人もおり、東京湾岸部全体のジョギングの拠点の一つとして親しまれるようになっています。



14 文化の「出島」

晴 海地区5丁目の晴海埠頭に文化の拠点があります。かつて長崎にあった出島のように、最先端の世界の文化を受け入れ、楽しめる場所です。3方を海と運河に囲まれたここには、晴海客船ターミナルの建物を転用したマリンスポーツの場や、スポーツバー、BBOスペースなどが設けられ、ラフなスタイルで様々な国や地域の人たちが交流する場となっています。



03 マルシェ+屋台村

運 河に面する緑地と広い歩道で、毎週金曜日の午後から日曜日の夜まで「週末リゾートワイナリーマルシェ」が開催されています。晴海で暮らす人や働く人がオシャレで、優雅な空間でゆったりとした時間を過ごしています。お昼からワインを楽しむ場として晴海を象徴するイベントに成長し、今ではわざわざ地区外からマルシェを目当てにやってくる人も増えました。運河沿いにたくさん移動販売店がとぎやきと出店し、珍しいワインや数々の美味しい食材を手に入れることが出来ます。週に一度は音楽や映画のイベントが開かれ、賑やかに華を添え、賑やかさは夜まで途切れることはありません。



のぞいてみよう！ 未来の晴海ぐらし

「未来の晴海」のアイデアが実現した将来の晴海はどのようなまちになっているのでしょうか？
ここでは市民ワークショップでイメージをした9つのプロジェクトから見てくる未来のまちを描いてみます。

26 ワクワクする食の発信基地

晴 海にあった空き店舗でスタートした「ワクワクする食の発信基地」プロジェクトから誕生した飲食店は10店舗を数えるまでになりました。このプロジェクトは、卸売市場に買い出しにくる修業中の料理人とタッグを組んで、空き店舗で試験的に飲食店をスタートするというもので、料理人の起業を地域ぐるみで応援する様々なプログラムを持つています。また、地区の住民や働く人が自らの食について考えた飲食店もあります。



12 旧三つ目通りを並木道に



晴 海のメインストリートである東西方向に伸びる旧三つ目通りは、「晴海オリンピックストリート」と呼ばれ、歩行者中心の公園通りとして多くの人に親しまれています。その特徴は、単なる歩道と並木の組み合わせではない、「道の中心に公園を作る」というコンセプトにあります。通りの中央に幅が広い歩行空間があり、両脇の車道は交通量が少ない豊洲側から5丁目側に向かって段階的に狭くなっています。歩行空間にはゆったりとした地形の変化がつけられ、その中に図書館や本屋や飲食店が点在して、通りの賑わいを作り出しています。本屋や飲食店で得られる収益は歩行空間のメンテナンス費用にあてられています。真夏の盆踊り大会が歩行空間を解放して開催されているなど、季節ごとの地域行事の会場としても使われることがあります。晴海オリンピックストリートは仙台の定禅寺通りやバルセロナのランブラス通りと並ぶほどの、晴海自慢の通りです。

ハルミトリビオ

あなたは知ってる？ 晴海の素敵なこんなとこ。

#01

晴海の土地

名建築を偲ぶ

かつてこの地にあった「日本住宅
公団晴海団地」は戦後の都市型
集合住宅のモデルとなるべく設計さ
れた、住宅建築史上に残る名建築で
した。設計は前川國男、先ごろに作
品のいくつかが世界遺産に選定され
たル・コルビュジエに師事した、日
本の近代建築の巨匠の一人です。再
開発にともなう晴海団地は解体さ
れてしまいましたが、その一部は八
王子にあるUR都市機構の施設に保
存されており、当時の最先端の住宅
技術を見ることができます。



晴海トリトンスクエア

エリアマネジメントのはしり

開 発後にきちんとまちをマネジメント
しないと、まちは衰退してしまいま
す。こうした「エリア・マネジメント」エリ
マネ」の考え方は近年重視されてきていま
す。2001年にオープンした晴海トリトンスク
エアにはこの「エリマネ」の仕組みが組み込
まれており、多くの後発のエリマネのお手本
となっています。例えば防災訓練をはじめ
「晴っ呼まつり」や「晴海フラワーカーベッ
ト」といったイベント
や・花と緑の晴海・フ
ラワーアイランド
2020植栽の維持管
理など、エリマネに
よってトリトンの個性
はつくり出されている
のです。



晴っ呼まつり



晴海団地設計者
前川國男

日本住宅公団
晴海団地



編集後記

未来の晴海のアイデアで共通
している考え方を最後にまとめ
ておきます。アイデアには食や
スポーツといった健康に関わる
アイデアが多く見られました。
都市や建物から健康がサポート
され、住んでいるだけで、暮ら
しているだけで健康寿命がのび
るまちは「スマートウェルネス
シティ」と呼ばれ、新しい都市
コンセプトとして注目されてい
ます。晴海のまちでそれはどう
実現できるでしょうか？

しばらく 晴海のまちづくり 取り組みます

8回のワークショップから描き出された未
来の晴海の姿にどのような感想を持たれたで
しょうか？まだしばらく開発がつづく晴海地
区には、たくさん建物が建ち、新しい住民
の方もたくさん入ってきます。そしてオリ
ンピック・パラリンピック期間中には世界中
のアスリートが集う場所になります。こうした
大きな流れ、大きな変化を少しだけ整えるこ
とによって、8回のワークショップで出され
た皆さんのプロジェクトやアイデアを実現
することはできないでしょうか？

そういったことを実現するには、まちのこ
とを常に考え、ヘッドクォーターとなる、組
織や知恵が不可欠です。幸いにも晴海には、
これまでのまちづくりで培ってきた豊かな地
域の組織があります。8回のワークショップ
を終え、そこで出会った新しい人たちが、こ
れまでの地域の組織の関係を紡ぎながら、こ
こしばらく「晴海のまちづくり」に取り組ん
でいきたいと思います。

